

※視察地 岡山県西栗倉村

1. 日 時 令和7年11月19日（水）午後2時00分～午後4時00分
2. 視察事項 「脱炭素先行地域」環境モデル都市、バイオマス産業都市への取組について
3. 視察対応者 西栗倉村役場 産業観光課 主事 妹尾 辰郎 氏
4. 視察の概要

（1）視察の目的

「脱炭素先行地域」環境モデル都市、バイオマス産業都市への取組等について研修し、当町における今後の方策の参考に資することを目的とする。

（2）西栗倉村の概要

- ・面積 57.97km² 内93%を森林が占める。そのうち84%が人工林
- ・人口 1,318人 608世帯 高齢化率38.7%（2025.3.31 現在）
- ・気候 年間平均気温は11℃、年間平均降水量は約2,000mm
- ・2025年度一般会計予算 約40億円

（3）西栗倉村における脱炭素の取り組みについて

ア. 百年の森林構想

- ・西栗倉村が2058年を目標年として、約50年前に植林した森林を立派な「百年の森林」にしようと実現に向けて村ぐるみで挑戦している構想。

役場が株式会社百森と協力して森林所有者から森林を預かり、間伐や作業道の整備を実施している。村の予算で効率的な森林整備を行い、10年を一区切りとして長期管理している。

脱炭素社会の実現に向けて地球温暖化対策への貢献はもとより、地域経済の活性化、雇用の創出、地域住民の生活の質の向上、そして何よりも自然の恵みを未来に繋ぎ、持続可能な森林管理を目指している。

イ. 再生可能エネルギーの導入

- ・森林から得られる間伐材などを活用したバイオマス発電や小水力発電、そして太陽光発電といった地域に最適な再生可能エネルギーの導入を積極的に推進している。これにより、村内の電力需要を地産地消のクリーンエネルギーで賄い、「資材・エネルギー調達における脱炭素化・環境負荷軽

減」を実現している。

（４）所見

西栗倉村は、豊かな森林資源に恵まれた地域であり、その特性を最大限に活かした脱炭素社会の実現は、持続可能な村づくりにおいて極めて重要な柱となっている。

バイオマス発電や小水力発電、そして太陽光発電といった地域に最適な再生可能エネルギーの導入を積極的に進めており、地域内でのエネルギー自給率を高める努力が続けられています。村内に設置された様々な発電システムにより電力が生み出され、その収益は地域経済に還元されています。この取り組みにより、村全体の CO2 排出量削減だけではなく、地域経済の活性化にも寄与しています。

本町もまた、脱炭素先行地域として取り組みを進めており、地域資源を最大限に活用しながら地域全体での協力と創意工夫を通じて持続可能な社会の実現を目指し、そして未来世代に厚沢部町の豊かな自然を引き継ぐことを願っております。

※視察地 岡山県美咲町

1. 日 時 令和7年11月20日（木）午前9時00分～午前11時00分

2. 視察事項 義務教育学校について

3. 視察対応者 美咲町立柵原学園 校長 新免 道明 氏
副校長 杉井 勝 氏
教頭 忠政 彰浩 氏
美咲町地域みらい課 副参事 宗近 由利 氏

4. 視察の概要

（1）視察の目的

義務学校教育、新校舎等について視察研修し、当町における今後の義務教育学校運営の参考に資することを目的とする。

（2）美咲町の概要

- ・面積 232.2km²
- ・人口 12,360人 5,795世帯（2025.3.31現在）
- ・2025年度一般会計予算 約112億6千万円

（3）美咲町立柵原学園の取り組み

柵原学園は、小学校から中学校までの9年間を一貫した教育課程で指導する義務教育学校として、令和6年4月に柵原東小学校・柵原西小学校・柵原中学校が統合され新規開校いたしました。

学園の教育目標は、「ふるさと柵原を愛し、心豊かにたくましく主体的に学ぶ子どもの育成」。これは、学校と地域社会が連携・協働し、子どもたちが「何のために学ぶのか」を明確にしながら、必要とされる資質・能力を育んでいくことを目標にしています。

- ・柵原学園新築工事事業費 47億円
工期 令和4年10月25日～令和6年3月22日
- ・開校当時生徒数302人 職員数65名
- ・特徴を生かした学年段階の区切り 4－3－2年制
前期ステージ 基礎基本の習得期
中期ステージ 学びの活用・充実期
後期ステージ 進路実現期

・ 柵原学園の重点取組

1. 魅力ある授業の創造

話し合い・学び合う学習の充実を進め、自己表現力・自己肯定感を育み、自ら学びに向かう主体性を育成する。

2. 柵原ドリーム学の充実

柵原地域をフィールドとして、地域を見つめ、地域に学び、地域を生かす学習。柵原の現在と未来について考え、地域に対し、協働・参画・貢献をする。

3. 社会性の育成

話し合い、支え合い、仲間とともに活動する体験を取り入れ、温かい集団づくりをする。

4. 特別支援教育の推進

特別支援教育の視点を意識した集団における個への支援の充実を図る。

(4) 所見

美咲町の義務教育学校新築に至った背景には、長年にわたる施設の老朽化が深刻な問題として認識されていたことがあります。平成27年には柵原中学校区の小中学校 PTA 会長連名で柵原中学校の改築要望書が提出されました。これを受けて、町の教育委員会は地域住民や保護者からの意見を広く聴取し、令和2年7月には開校準備委員会が設立されました。要望から9年という長い歳月を経て、義務教育学校を新築されたということです。

柳原学園は、コミュニティスクールと地域学校協働活動の一体的推進に力を入れており、その特色として郷土学習「柵原ドリーム学」を通じて地域の魅力を発信し、課題解決に取り組むことで将来にわたり地域貢献できる人材の育成を目指しています。また、特別支援教育にも積極的に取り組んでおり、不登校生徒はゼロとのことでした。

新校舎については、令和6年3月に竣工されたばかりで、その設計は非常に優れていました。自然光を取り入れる大きな窓や広々とした廊下、多様な学習スタイルに対応できるオープンスペースなどが特徴です。また、地域開放ゾーンとして体育館や交流ホール、多目的室などが配置されており、住民が利用しやすい動線設計となっています。教師の働き方改革にも配慮されており、鍵の管理は近くのコンビニエンスストアにお願いしているそうです。

さらに、この新校舎は防災拠点としても機能しており、マンホールトイレや備蓄倉庫、非常電源なども完備されておりました。

本町の義務教育学校校舎新築にあたり、地域のコミュニティスクールの拠点として、町民のレクリエーションや防災活動など多様な用途で活用できる複合施設として開校できることを期待しております。

※視察地 福岡県糸島市「伊都菜彩」

1. 日 時 令和7年11月21日（金）午前9時00分～午前10時30分

2. 視察事項 農産物直売に向けた取組

3. 視察の概要

（1）視察の目的

農産物直売に向けた先進的な取組について研修し、本町の農業・観光振興の参考に資することを目的とする。

（2）糸島市の概要

- ・面積 215.69km²
- ・人口 100,382人（2025年9月1日）
- ・土地 糸島平野と呼ばれるなだらかな田園地帯の中に、東西を結ぶ国道202号線が走りその中心に市街地が形成されている

（3）JA 糸島産直市場「伊都菜彩」の概要

- ・平成19年4月オープン
- ・売り場面積1,506m²
- ・登録生産者数1,516名（令和5年3月末）

1. 地産地消の促進

伊都菜彩では、地元で生産された新鮮な野菜や農産物を販売しており、消費者には旬の食材を手に入れる機会を提供しています。この取り組みは、農家の所得向上を図るとともに、消費者にとって安全・安心な食材を提供するという重要な役割を果たしています。

2. 地域イベントの開催

季節ごとのイベントや、食育に関するワークショップを定期的で開催し、地域住民や観光客に対して地元の食文化の理解を深める機会を提供しています。これにより、地域と訪問者との交流が促進され、地域の魅力を発信する重要なプラットフォームとなっています。

3. 農業教育プログラムの実施

伊都菜彩では、学校との連携を通じて若年層に向けた農業教育プログラムを展開し、子どもたちに農業への理解を深めてもらう取り組みも行っています。これ

により、次世代の農業を担う人材の育成や、地元農産物への関心を高めることが期待されています。

（４）所見

まず目に飛び込んできたのは、直売所の枠を超えた巨大なスーパーマーケットのような圧倒的なスケールです。平日でも数千人規模という集客力、テニスコート５面分と言われる広大な売り場に圧倒されました。また商品の 97%は糸島産で、1,500 人以上の登録生産者から出品されています。野菜や果物だけでなく、鮮魚、精肉、加工品、花卉、惣菜まで豊富に取り揃えられており、この多様性が「糸島ブランド」を確立する要因と評価できます。「スーパーに行かずに済む」というワンストップの利便性が、遠方からのリピーターを生む理由だと感じました。

さらに福岡市という巨大消費地から車で 30～40 分という「都市に近い田舎」という立地を最大限に活用している印象も受けました。この場所は、単なる買い物スポットではなく、観光やドライブの目的地として利用されているようです。

本町でも安全・安心な食材「あっさぶブランド」の販売を宣伝することで一層の地産地消や地域経済全体の活性化が期待されます。あっさぶ道の駅も函館市から車で１時間とアクセスが良く、最適な観光ドライブの目的地となっています。

単なる直売所の枠を超えて人気スポットとなるためには、様々なイベント開催、生産者登録の増加、新たな加工品の開発などによって豊富な品揃えを実現することが望めます。